

## Itakeskuksen palvelutalo in Finland

●訪問日時: 2009年9月25日(金)14:30~16:00

●訪問先: Itakeskuksen palvelutalo  
Voikukantie 6, Helsinki

●面談: Ms N (施設長)

※レート : 9月中旬の両替時で1E=137円

ヘルシンキ市中心地より地下鉄で約15分「東センター」の意味の駅(比較的大きな駅ながら、風景は郊外)から、徒歩で約20分。低層アパートメントの住宅地といった雰囲気。かなり整備された町並み。施設から歩いて3分程度のところに、大きなマーケット&モール。



施設建物の形は左写真のとおり、コの字型で、へこんだまん中が入口。庭がかなり整備されており、周辺も同じようなレンガ造りのアパートメント。

施設は4階建て。1980年築で、ちょうど去年11月にリニューアルしたところだそう。外見はレトロなのに、中は新築同様なくらいにキレイになっている。玄関入ってすぐに、サン・ルーム。

玄関はロックされていてインターホンもなく、訪問時「どうしよう…」とっていると、中から入居者らしき女性が出てきたので、そのすきに入るも、どうも入居者ばかりの様子。職員らしき女性を見かけたので、「Ms.N とアポイントある」旨伝えるも「No English」と言われ、フィンランド人は誰もが英語がOKと思っていたので意外な状況に。困っていると英語を話せる人が出てきて、Nは違う場所にいると言われたところに、Ms N が登場。

ディレクターズルームにて資料(Fin語)をいただき概要をヒアリング。建物は4階で、1階が共用スペース(ショートステイ×5名<個室3+カップル×1)やデイサービスセンター(16人/日)、自立用の人の食堂(小さい売店を兼ねる)、カンファレンスルームなど。

施設の機能としては、

- ◇自立用(サポート必要レベルまで)が54室(40㎡程度の1ルームにミニキッチン、シャワー&トイレ)緊急通報は腕時計型のものひとつ
- ◇グループホーム(13人 or 14人が1ユニット×3)、ユニットごとに花の名前
- ◇ショートステイ(5名)、デイサービス(16名)

従業員は正社員が70名、非正社員、学生、ボランティア含めると100名程度。それに対し全利用者は100名程度なので、職員体制は充実。レジデント(自立型)は、Aチーム、Bチームに体制を分け、1チームに看護師9名、アシスタント(介護職員)1名の体制(20名体制)。グループホームは、1ユニットに看護師8名、アシスタント1名(27名)。

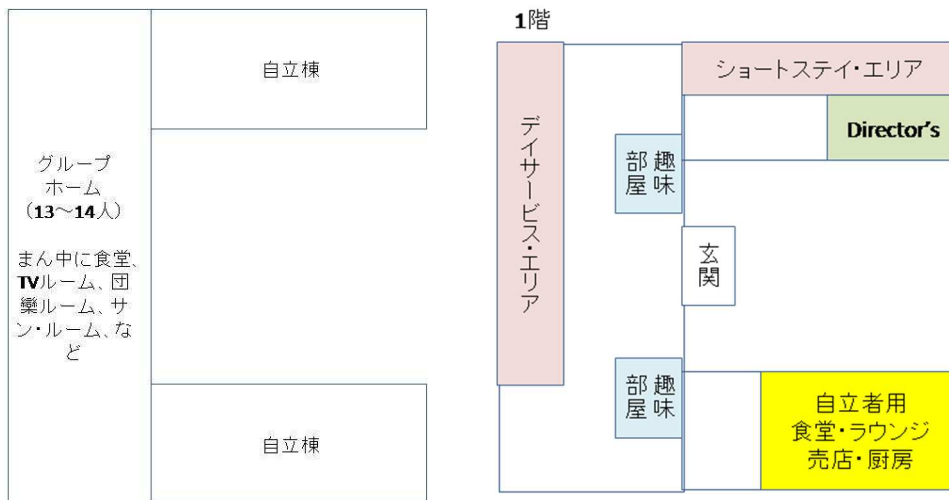
これらの機能のほかに、アクティビティ専門のチームもあり、どのユニットに所属していても参加できる内容。日本にもあるような、日々の遊びから遠足、運動、ハンディクラフトなどいろいろ。

★料金体系とフィンランドの社会制度体制は？

(この部分は自分の英語力不足で込み入った詳細を聞いていない)

公的介護保険のような社会制度はある。自己負担は一律20%。この施設では、部屋のタイプや介護のレベル、どのサービスを必要とするかによって金額はかなり幅があるが、基本的に必要な金額の20%を自己負担(日本と違って限度額というものが無い様子)。基本のレジデンスコストは、月40~60.5ユーロ程度。食事は1日に3回か5回を選ぶ(5回というのは、朝、昼、晩にコーヒータイム<おやつ>と夜食で、以前オランダで聞いたものとほぼ同じか)。それによっても金額が異なり、3回は257.8E、5回は343.7E。介護サービスは、レベルによるが、おおよそ月108~2168E。

Ms Nの話では、上限で3000E/月。(結構高い?!)



1階が共有スペースとデイ、ショート、アクティビティなどのスペース。

2階~4階は、上左図面のとおり。階ごとにカーペットと各居室のドアの色を変えている。

各フロアに「サウナ」があるのもフィンランドらしい特徴。



ショートステイのリビング  
1回のステイは1~2週間



デイサービスの3スペースの一つ  
16人で3スペースは十分すぎる！



1階のソフト・ジム (HUR)



1階廊下 入居者の作品



自立者向けレストラン  
セルフが基本。ミニ売店も併設



左につながる食堂。意外と小さい。  
おやつを食べている人が数人。

自立棟も、日本の要介護2~3レベルの人が結構いるような雰囲気。  
認知症も結構多いとのこと。(ポリシーは自立支援・ADLの向上...おそらく)



GHのTVルーム



GHの団欒ルーム、奥が食堂

TVルームを区別しているのは、音がうるさいと思う人もいるから。



GHの居室のシャワー&トイレ

かなり広い



GH居室の備え付け電動ベッド

高さも変更できる(介護者のため)

※GHは、基本は20㎡、2人用はもう少し広い(34㎡だったかと…)



サウナ！フロアごとにある

高齢者用に椅子は低くしている。

この外にはシャワーが2つ。すぐに

介護者が対応できるように。「高齢者

なのに高温で大丈夫か？」には「Fin

人は長年の習慣だから No problem」。



自立型のキッチン 収納がすごい！

部屋は40㎡程度。広くない。

ミニ冷蔵庫を少し高めに設置している

のがなかなかの気配りか。シンク周り

はサポートバー付き。細かい気配り多々。





自立型 1ルームのみ



自立型 トイレ&シャワー  
将来の介助・介護も考えた設計



自立型 スプリンクラーが天井でなく、横壁(上方)に。



30年前の建築ゆえ階段がオシャレ  
だけど危険ならせん階段...



Ms N 組織トップの  
ディレクター



コの字型の中央部。真中が玄関。  
中央の黒い部分が各階全てサン・ルーム

### ★まとめ

非常に斬新というものはないが、北欧らしい(フィンランドらしい?)ファブリックや家具などがとてもステキで暖かみがありました。「マリメッコ」のファブリックかな、と思うようなものもちらほら(カーテンなど)。

「施設としては、2つの主義があって…」Ms N もうまく英語で表現できなくて申し訳ないと言いつつ、たぶんADLを活かすということと、家族や利用者に公平かつ情報オープンということを書いたかった様子。家族、利用者を含めてのミーティングは頻繁にもっているとのこと。

感心したのは、Ms N がすれ違う入居者みんなに「日本から来た、コミ・ヤマナカさん」(Fin 語なのでたぶんそういう意味かと)と紹介してくれていたこと。よく私のフルネームを覚えられたな、と驚く。GH で、「日本なんてどこにあるのかわからない」とか、「日本人を初めて見た」とか(苦笑)、も正直に通訳してくれました。

利用者の平均年齢は 84 歳、女性 70%、男性 30%くらい。Fin 人の平均寿命より少し高いぐらいか。施設利用者の平均年齢がほぼ日本人と同じというのにちょっと驚き。

人員体制が充実なのと、スタッフがほとんど看護師というのも驚き。公営だからかもしれないが、もう少し制度やシステム(社会制度的なもの)を聞きたかったが、私の語学力の貧弱さゆえそこまで突っ込めず…。

### ※余談

訪問前に Net で某論文を読んだら、フィンランドは公営カジノがあり、この収益が高齢者福祉制度の財源になっているとのこと。ヘルシンキ中央駅の横のビルには大きな「CASINO」があり、驚くことに、スーパーやキオスクや古いマーケットでも、必ず左のようなスロットマシンがある。しかも老若男女(15 歳以上ならスロットが可能とか)、キャッシュ(たぶん 50c とか 1E とかそれくらいを何枚か)を賭ける。そして誰もしていない時を全く見ないくらい、常に誰かがいつもスロットをしている。重要な福祉財源になっている。



(写真は、100 年くらい続く古い市場の中の 1 コーナー)